



ポリシーベース ルーティングの設定

この章では、Cisco NX-OS デバイスでポリシー ベース ルーティングを設定する方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [ポリシーベース ルーティングについて \(1 ページ\)](#)
- [ポリシーベース ルーティングの前提条件 \(4 ページ\)](#)
- [ポリシーベース ルーティングの注意事項と制約事項 \(4 ページ\)](#)
- [デフォルト設定 \(5 ページ\)](#)
- [ポリシーベース ルーティングの設定 \(5 ページ\)](#)
- [ポリシーベース ルーティングの設定の確認 \(10 ページ\)](#)
- [ポリシーベース ルーティングの設定例 \(10 ページ\)](#)

ポリシーベース ルーティングについて

ポリシーベース ルーティングを使用すると、IPv4 および IPv6 トラフィックフローに定義済みのポリシーを設定し、ルーティングプロトコルから派生したルートへの依存を弱めることができます。ポリシーベースルーティングがイネーブルのインターフェイスで受信するすべてのパケットは、拡張パケット フィルタまたはルート マップを経由して渡されます。ルート マップでは、パケットの転送先を決定するポリシーを記述します。

ポリシーベース ルーティングには、次の機能が含まれます。

- 送信元ベース ルーティング：異なるユーザセットを起点とするトラフィックをポリシー ルータ上のそれぞれ異なる接続を使用してルーティングします。
- QoS (Quality of Service)：ネットワークの周辺で IP パケット ヘッダーに優先または ToS (タイプ オブ サービス) 値を設定することによって、またはキューイング メカニズムを利用して、ネットワークのコアまたはバックボーンでトラフィックにプライオリティを設定することによって、トラフィックを差別化します (『[Cisco Nexus 3600 NX-OS Quality of Service Configuration Guide](#)』を参照)。
- ロードシェアリング：トラフィックの特性に基づいて、複数のパスにトラフィックを分散します。

ポリシー ルート マップ

ルート マップのエントリごとに、**match** 文と **set** 文の組み合わせが 1 つずつ含まれています。**match** 文では、該当するパケットが特定のポリシーを満たす基準（つまり、満たすべき条件）を定義します。**set** 文節で、**match** 基準を満たしたパケットをどのようにルーティングするかを説明します。

ルート マップ文を許可または拒否として指定できます。文の解釈は次のとおりです。

- 文に許可が指定されていて、なおかつパケットが一致基準を満たしている場合は、の **set** 文節が適用されます。そのアクションの 1 つに、ネクスト ホップの選択が含まれます。
- 文に拒否が指定されている場合、一致基準を満たすパケットは標準のフォワーディング チャンネルを通じて送り返され、宛先ベース ルーティングが実行されます。
- 文が **permit** とマークされ、パケットがいずれのルート -マップ文にも一致しない場合、そのパケットは通常の転送チャンネルを介して返送され、宛先ベースのルーティングが実行されます。



(注) ポリシールーティングは、パケットの送信元となるインターフェイスではなく、パケットを受信するインターフェイス上で指定します。

ポリシーベース ルーティングの **set** 基準

Cisco Nexus 3600 プラットフォーム スイッチは、ポリシーベース ルーティングで使用されるルートマップに対して次の **set** コマンドをサポートしています。

- **set {ip | ipv6} next-hop address1 [address2...] [load-share]**
- **set interface null0**

これらの **set** コマンドは、ルートマップ シーケンス内では相互に排他的です。

最初のコマンドで、IP アドレスでは、パケットの転送先である宛先へのパス上の隣接ネクスト ホップルータを指定します。その時点でアップの接続インターフェイスに関連付けられた最初の IP アドレスがパケットのルーティングに使用されます。



(注) 任意に、最大 32 の IP アドレスにバランシング トラフィックをロードするように、ネクスト ホップアドレスのこのコマンドを設定できます。この場合、Cisco NX-OS は各 IP フローのすべてのトラフィックを特定の IP ネクスト ホップ アドレスに送信します。

パケットが定義された一致基準のいずれにも一致しない場合、そのパケットは標準の宛先ベース ルーティング プロセスを使用してルーティングされます。

ルート マップ処理ロジック

ルートマップが設定されたインターフェイスでパケットが受信されると、転送ロジックはシーケンス番号に従って各ルート マップ ステートメントを処理します。

ルートマップ文が `route-map...permit` 文の場合、パケットは `match` コマンドの基準と照合されます。このコマンドは、1つ以上のアクセスコントロールエントリ (ACE) を持つACLを参照する場合があります。パケットがACL内の許可ACEと一致する場合、ポリシーベースルーティングロジックはパケットに対して `set` コマンドで指定されたアクションを実行します。

ルートマップ文に `route-map...deny` 拒否文がある場合、パケットは一致コマンドの基準と照合されます。このコマンドは、1つ以上のACEを持つACLを参照する場合があります。パケットがACLの許可ACEに一致すると、ポリシーベース ルーティング プロセスが停止し、パケットはデフォルト IP ルーティング テーブルを使用してルーティングされます。



(注) `set` コマンドは、`route-map...deny` 文内部に影響しません。

- ルートマップ設定に `match` 文が含まれていない場合、ポリシーベースルーティングロジックは `set` コマンドで指定されているアクションをパケットに対して実行します。すべてのパケットは、ポリシーベースルーティングを使用してルーティングされます。
- ルートマップコンフィギュレーションが `match` ステートメントを参照し、`match` ステートメントがアクセスコントロールエントリ (ACE) のない既存のACLまたは既存のACLを参照する場合、パケットはデフォルトルーティングテーブルを使用してルーティングされます。
- `set {ip | ipv6} next-hop` コマンドで指定されているネクスト ホップがダウンしているか、アクセス不能であるか、削除されている場合、パケットはデフォルト ルーティング テーブルを使用してルーティングされます。

Cisco NX-OS リリース 9.2(3) 以降では、`next-hop ip-address load-share` コマンドを使用して、ネクストホップが ECMP パス上で再帰的である場合、Cisco Nexus 36180YC-R スイッチ上でポリシーベース ルーティング トラフィックを分散できます。すべてのネクストホップルーティング要求については、ルーティングプロファイルマネージャ (RPM) がユニキャストルーティング情報ベース (uRIB) を使用してそれらを解決し、すべての ECMP パスをプログラムします。これにより、すべての ECMP パスの負荷が均一に分散されます。PMP over ECMP は IPv4 でのみサポートされます。

ポリシーベース ルーティング フィルタリング オプション

追加のオプションを使用してトラフィックを識別できます。次のリストには、ほとんどの追加フィルタリングオプションが含まれていますが、すべてを網羅しているわけではありません。

ポリシーベースのルーティング ACL は、次の追加フィルタリング オプションをサポートしています。

- レイヤ 3 送信元アドレスおよび/または宛先アドレス
- TCP/UDP ポート

ポリシーベース ルーティングの前提条件

追加のオプションを使用してトラフィックを識別できます。次のリストには、ほとんどの追加フィルタリングオプションが含まれていますが、すべてを網羅しているわけではありません。

ポリシーベースのルーティング ACL は、次の追加フィルタリング オプションをサポートしています。

- レイヤ 3 送信元アドレスおよび/または宛先アドレス
- TCP/UDP ポート

ポリシーベース ルーティングの注意事項と制約事項

ポリシーベース ルーティングに関する注意事項および制約事項は、次のとおりです。

- Cisco NX-OS リリース 7.0(3)F3(3) 以降、Cisco Nexus 3600 プラットフォーム スイッチは IPv4 および IPv6 ポリシーベース ルーティングをサポートします。これらのスイッチの場合、PBR ポリシーは、接続されているルートおよびローカル ルートよりも高い優先度を持ちます。プロトコルネイバーが直接接続されている場合は、明示的な許可リストが必要になることがあります。
- ポリシーベース ルーティングのルート マップでは、1 つのルート マップ文に `match` 文を 1 つだけ指定できます。
- `match` コマンドで、ポリシーベース ルーティング用ルート マップの複数の ACL を参照できません。
- インターフェイスが同じ仮想ルーティング/転送 (VRF) インスタンスに所属している場合は、ポリシーベース ルーティング対応のさまざまなインターフェイス間で、同じルート マップを共有できます。
- 一致基準としてプレフィックスリストを使用することはサポートされていません。ポリシーベース ルーティングルートマップではプレフィックスリストを使用しないでください。
- ポリシーベース ルーティングは、ユニキャストトラフィックのみをサポートします。マルチキャストトラフィックはサポートされていません。
- レイヤ 3 ポート チャネル サブインターフェイスによるポリシーベース ルーティングがサポートされます。
- ポリシーベース ルーティングのルート マップで使用する ACL には拒否アクセス コントロール エントリ (ACE) 含めることができません。

- ポリシーベースルーティングは、デフォルトのシステムルーティングモードでのみサポートされます。
- ネクストホップが ECMP パス上で再帰的である場合、ポリシーベース ルーティング トラフィックのバランスをとることはできません。代わりに、**set {ip | ipv6} next-hop ip-address load-share** コマンドを使用して隣接ネクスト ホップを指定します。
- ポリシーベース ルーティングは、VXLAN ではサポートされていません
- ポリシーベース ルーティング ポリシー統計情報はサポートされていません。

デフォルト設定

下の表に、ポリシーベース ルーティング パラメータのデフォルト設定を示します。

表 1: デフォルトのポリシーベース ルーティング パラメータ

パラメータ	デフォルト
ポリシーベース ルーティング	無効化

ポリシーベース ルーティングの設定

ポリシーベース ルーティング機能のイネーブル化

ルート ポリシーを設定する前に、ポリシーベース ルーティング機能をイネーブルにしておく必要があります。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **[no] feature pbr**
3. (任意) **show feature**
4. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します
ステップ 2	[no] feature pbr 例： switch(config)# feature pbr	ポリシーベースルーティング機能をイネーブルにします。 ポリシーベース ルーティング機能を無効にするには、このコマンドの no 形式を使用します。 (注) no feature pbr コマンドは、インターフェイスに適用されているポリシーを削除します。ACL またはルートマップ設定は削除されず、システムチェックポイントも作成されません。
ステップ 3	(任意) show feature 例： switch(config)# show feature	有効および無効にされた機能を表示します。
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	この設定変更を保存します。

ECMP 上のポリシーベース ルーティングの有効化

ECMP を介した PBR は、デフォルトでは有効になっていません。ルート ポリシーを設定する前に、ポリシーベース ルーティング機能をイネーブルにしておく必要があります。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **[no] feature pbr**
3. (任意) **show feature**
4. **[no] hardware profile pbr ecmp paths max-paths**
5. **show system internal rpm state**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	[no] feature pbr 例 : <pre>switch(config)# feature pbr</pre>	ポリシーベース ルーティング機能をイネーブルにします。 ポリシーベース ルーティング機能を無効にするには、このコマンドの no 形式を使用します。 (注) no feature pbr コマンドは、インターフェイスに適用されているポリシーを削除します。ACL またはルートマップ設定は削除されず、システムチェックポイントも作成されません。
ステップ 3	(任意) show feature 例 : <pre>switch(config)# show feature</pre>	有効および無効にされた機能を表示します。
ステップ 4	[no] hardware profile pbr ecmp paths max-paths 例 : <pre>switch(config)# hardware profile pbr ecmp paths max-paths 12 Warning!!: The pbr ecmp path limits have been changed. Please reload the switch now for the change to take effect. switch(config)# switch(config)# no hardware profile pbr ecmp paths max-paths 12 Warning!!: The pbr ecmp path limits have been changed. Please reload the switch now for the change to take effect. switch(config)#</pre>	IP ネクスト ホップの ECMP パスの数を設定します。ただし、設定された IP ネクスト ホップでロードシェアを明示的に設定しない限り、トラフィックはすべてのパスを通過しない可能性があります。PBRECMPPパスを削除または変更すると、その変更は次のリロード後にのみ有効になります。範囲は 1 ~ 64 です。
ステップ 5	show system internal rpm state	PBR ECMP パスの現在設定されている値と動作値を表示します。

ルート ポリシーの設定

ポリシーベースルーティングでルートマップを使用すると、着信インターフェイスにルーティングポリシーを割り当てることができます。Cisco NX-OS はネクスト ホップおよびインターフェイスを検出するときに、パケットをルーティングします。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface type slot/port**
3. **{ ip | ipv6 } policy route-map map-name**
4. **route-map map-name [permit | deny] [seq]**
5. **match {ip | ipv6} address access-list-name name [name...]**
6. (任意) **set ip next-hop address1 [address2...] [load-share] [drop-on-fail]**
7. **set ipv6 next-hop address1 [address2...][load-share] [drop-on-fail]**
8. (任意) **set ip next-hop verify-availability**
9. (任意) **set interface null0**
10. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	interface type slot/port 例 : <pre>switch(config)# interface ethernet 1/2 switch(config-if)#</pre>	インターフェイス設定モードを開始します。
ステップ 3	{ ip ipv6 } policy route-map map-name 例 : <pre>switch(config-if)# ip policy route-map Testmap</pre>	IPv4 または IPv6 ポリシーベースルーティング用のルートマップをインターフェイスに割り当てます。
ステップ 4	route-map map-name [permit deny] [seq] 例 : <pre>switch(config-if)# route-map Testmap switch(config-route-map)#</pre>	ルートマップを作成するか、または既存のルートマップに対応するルートマップ設定モードを開始します。seq を使用して、ルートマップ エントリを順序付けます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	match {ip ipv6} address access-list-name name [name...] 例 : <pre>switch(config-route-map)# match ip address access-list-name ACL1</pre>	1 つまたは複数の IPv4 または IPv6 アクセス コントロール リスト (ACL) に対して IP または IPv6 アドレスを照合します。このコマンドはポリシーベース ルーティング用であり、ルート フィルタリング または再配布では無視されます。
ステップ 6	(任意) set ip next-hop address1 [address2...] [load-share] [drop-on-fail] 例 : <pre>switch(config-route-map)# set ip next-hop 192.0.2.1</pre>	ポリシーベース ルーティング用の IPv4 ネクスト ホップアドレスを設定します。このコマンドでは、複数のアドレスが設定されている場合に、最初の有効なネクスト ホップアドレスが使用されます。 任意の load-share キーワードを使用して、最大 32 のネクスト ホップアドレスにトラフィックのロード バランシングを行います。 設定されたネクスト ホップが到達不能になったときに、デフォルト ルーティングを使用する代わりに、オプションの drop-on-fail キーワードを使用してパケットをドロップできます。
ステップ 7	set ipv6 next-hop address1 [address2...][load-share] [drop-on-fail] 例 : <pre>switch(config-route-map)# set ipv6 next-hop 2001:0DB8::1</pre>	ポリシーベース ルーティング用の IPv6 ネクスト ホップアドレスを設定します。このコマンドでは、複数のアドレスが設定されている場合に、最初の有効なネクスト ホップアドレスが使用されます。 任意の load-share キーワードを使用して、最大 32 のネクスト ホップアドレスにトラフィックのロード バランシングを行います。 設定されたネクスト ホップが到達不能になったときに、デフォルト ルーティングを使用する代わりに、オプションの drop-on-fail キーワードを使用してパケットをドロップできます。
ステップ 8	(任意) set ip next-hop verify-availability	<pre>switch(config-route-map)# set ip next-hop verify-availability</pre> スイッチがそのネクスト ホップへのポリシールーティングを実行する前に、ルート マッピングのネクストホップの到達可能性を確認するポリシールーティングを設定するには、このコマンドを使用します。
ステップ 9	(任意) set interface null0 例 : <pre>switch(config-route-map)# set interface null0</pre>	ルーティングに使用するインターフェイスを設定します。パケットをドロップするには null0 インターフェイスを使用します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config-route-map)# copy running-config startup-config</pre>	この設定変更を保存します。

ポリシーベース ルーティングの設定の確認

ポリシーベース ルーティングの設定情報を表示するには、次のいずれかのタスクを実行します。

コマンド	目的
show [ip ipv6] policy [name]	IPv4 または IPv6 ポリシーに関する情報を表示します。

ポリシーベース ルーティングの設定例

インターフェイス上で単純なルート ポリシーを設定する例を示します。

```
ip access-list pbr-sample
permit tcp host 10.1.1.1 host 192.168.2.1 eq 80
!
route-map pbr-sample
match ip address pbr-sample
set ip next-hop 192.168.1.1
!
route-map pbr-sample
interface ethernet 1/2
ip policy route-map pbr-sample
```

次の出力で、この設定を確認します。

```
switch# show route-map pbr-sample
route-map pbr-sample, permit, sequence 10
Match clauses:
```

```
ip address (access-lists): pbr-sample
Set clauses:
```

```
ip next-hop 192.168.1.1
switch# show ip policy
Interface Route-map Status VRF-Name
Ethernet1/2 pbr-sample Active --
```

この例は、ECMP パスと非 ECMP パス間のロードシェアリングを示しています。

```
switch# show run rpm
!Command: show running-config rpm
!Running configuration last done at: Sun Dec 23 16:02:32 2018
!Time: Sun Dec 23 16:06:13 2018

version 9.2(3) Bios:version 08.35
```

```
feature pbr

route-map policy1 pbr-statistics
route-map policy1 permit 10
  match ip address acl2
  set ip next-hop 131.1.1.2 load-share
route-map policy2 pbr-statistics
route-map policy2 permit 10
  match ip address acl2
  set ip next-hop verify-availability 131.1.1.2 track 1
  set ip next-hop verify-availability 30.1.1.2 track 2 load-share

interface Ethernet1/31
  ip policy route-map policy2
```

この例は、ネクスト ホップ ルーティング要求に関する情報を表示しています。

```
switch# show system internal rpm pbr ip nexthop
PBR IPv4 nexthop table for vrf default

30.1.1.2 Usable
  via 28.1.1.2 Ethernet1/18 a46c.2ae3.02a7

131.1.1.2 Usable
  via 111.1.1.2 Vlan81 8478.ac58.afc1
Usable
  via 112.1.1.2 Vlan82 8478.ac58.afc1
Usable
  via 113.1.1.2 Vlan83 8478.ac58.afc1
Usable
  via 114.1.1.2 Vlan84 8478.ac58.afc1
Usable
  via 115.1.1.2 Vlan85 8478.ac58.afc1
Usable
  via 116.1.1.2 Vlan86 8478.ac58.afc1
Usable
  via 117.1.1.2 Vlan87 8478.ac58.afc1
Usable
  via 118.1.1.2 Vlan88 8478.ac58.afc1
```

この例は、ユニキャスト RIB から受け取ったルートを表示しています。

```
switch# show ip route 130.1.1.2
IP Route Table for VRF "default"
'*' denotes best ucast next-hop
'***' denotes best mcast next-hop
'[x/y]' denotes [preference/metric]
'%<string>' in via output denotes VRF <string>

130.1.1.0/24, ubest/mbest: 8/0
  *via 111.1.1.2, Vlan81, [110/120], 00:07:57, ospf-1, inter
  *via 112.1.1.2, Vlan82, [110/120], 00:07:57, ospf-1, inter
  *via 113.1.1.2, Vlan83, [110/120], 00:07:57, ospf-1, inter
  *via 114.1.1.2, Vlan84, [110/120], 00:07:57, ospf-1, inter
  *via 115.1.1.2, Vlan85, [110/120], 00:07:57, ospf-1, inter
  *via 116.1.1.2, Vlan86, [110/120], 00:07:57, ospf-1, inter
  *via 117.1.1.2, Vlan87, [110/120], 00:07:57, ospf-1, inter
  *via 118.1.1.2, Vlan88, [110/120], 00:07:57, ospf-1, inter
```

```
switch# show ip route 30.1.1.2
IIP Route Table for VRF "default"
'*' denotes best ucast next-hop
'***' denotes best mcast next-hop
'[x/y]' denotes [preference/metric]
'%<string>' in via output denotes VRF <string>

30.1.1.0/24, ubest/mbest: 1/0
    *via 28.1.1.2, [1/0], 00:38:36, static
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。